

『沙石集』 諸本の成立と展開

【資料編】

土屋 有里子

無住関係略年表

上段には無住に直接関係する事項、中段には後世の伝記等から窺える間接的事項、下段には同時代の関連事項を記した。また、無住国師道跡考において、寛元四年から永仁三年までの記事が無住の年齢と一年ずつずれているが、他資料との比較の結果、年齢に合わせて記した。略号は、道跡考：無住国師道跡考、縁起：開山無住国師略縁起、伝燈録：延宝伝燈録、高僧伝：本朝高僧伝。

天皇年号	西暦	年齢	事項	参考事項	同時代的関連事項
後堀河 嘉祿二	一一二六	一	○十二月二十八日卯時（午前六時頃）誕生。	○梶原景時の末裔（道跡考）、源太景時の叔父（縁起）、武州椎原氏子（伝燈録）、梶原氏（高僧伝）。	○一月、九条頼経が將軍となる。
三 寛喜二	一一二七	二			○六月、嘉祿の法難。
貞永元	一一三二	七			○春より全国的な大飢饉起こる。
四 天福元	一一三三	八			○八月、『御成敗式目』制定・施行。
嘉禎元	一一三五	一〇			○春、道元が宇治興聖寺を開創。
曆仁元	一一三八	一三	○鎌倉の僧房に住む。	○寿福寺に入り童役を勤める（道跡考）。	○円爾入宋。
延応元	一一三九	一四			○二月、隠岐にて後鳥羽法皇没。
仁治元	一一四〇	一五	○下野の伯母のもとへ下る。		○三月、鎌倉大地震。
二 常陸の親族に養われる。	一一四一	一六			○四月、鎌倉大地震。○七月、円爾帰国し、筑前崇福寺・承天寺等を開創。
後嵯峨 寛元元	一一四二	一七	○出家する。	○常陸の法音寺にて出家、坊号一円とする（道跡考・縁起）。三井寺の円幸教王坊法橋に俱舎論頌疏を聴く（道跡考）。	○六月、北条泰時没。経時が執権になる。
三 法身坊上人に法華玄義を聴く。	一一四三	一八		○師から法音寺を譲られる（道跡考・縁起）。	○八月、九条道家が東福寺を創建し、円爾を住持とする。
二 法身坊上人に法華玄義を聴く。	一一四四	一九			○四月、九条頼嗣が將軍となる。○七月、道元、越前へ。
三 法身坊上人に法華玄義を聴く。	一一四五	二〇			

四

一二四六  
二一

○祖母尼公に教訓を受ける。

起)。

○五月、北条時頼が執権となり、名越光時の乱が起こる。○蘭溪道隆来日。

宝治元

一二四七  
二二

○住房を律院にする。

○上野世良田長楽寺へ行き、榮朝上人に

○六月、宝治合戦。○九月、榮朝没。

三

一二四八  
二二

○上野世良田長楽寺へ行き、朗誉に釈論を聴く。

○法音寺を出て遁世の身となる(縁起)。

○三月、京都、建長の大火。

建長四

一二五二  
二七

○遁世の身となり、これより律を学ぶこと六、七年に及ぶ。

○園城寺に上り、実道房上人に摩訶止観を聴き、南都へ行き五、六年、律学(道

○忍性、関東に下り、常陸三村寺に入る。

五

一二五三  
二八

○実道房上人に摩訶止観を聴く。

○二月、九条道家没。○三月、宗尊親王が將軍となる。

○八月、道元没。○十一月、建長寺創建。

六

一二五四  
二九

○和州菩提山正曆寺へ行き、東寺三宝院流の真言を受ける。

○兀庵普寧来日。○七月、日蓮が『立正安国論』を幕府に上進。

○八月、鎌倉に下り寿福寺に止住。

康元元

一二五六  
三一

○弘長年間に、伊勢大神宮に参詣する。

○北条長時、鎌倉極楽寺を創建し、忍性を招く。○円爾、建長寺の普寧を訪ねて鎌倉へ行く。○五月、日蓮、伊豆伊東に流罪となる。

○八月、鎌倉に大風洪水、赤斑瘡流行。

龜山

文応元

○尾州木賀崎靈鷲山長母寺に止住する。

○二月、叡尊、北条実時の招きで鎌倉へ下向の途中、長母寺に滞在する。○十一月、親鸞没。○無関普門、宋より帰国。

○十一月、北条時頼没。

弘長元

一二六一  
三六

○入寺の後久しからずして、長母寺消失。

○十一月、日蓮、小松原の法難。

○十一月、北条時頼没。

文永元

一二六三  
三八

○尾州木賀崎靈鷲山長母寺に止住する。

○十一月、北条時頼没。

○十一月、北条時頼没。

三

一二六四  
三九

○尾州木賀崎靈鷲山長母寺に止住する。

○十一月、北条時頼没。

○十一月、北条時頼没。

二

一二六二  
三七

○尾州木賀崎靈鷲山長母寺に止住する。

○十一月、北条時頼没。

○十一月、北条時頼没。

三

一二六三  
三八

○尾州木賀崎靈鷲山長母寺に止住する。

○十一月、北条時頼没。

○十一月、北条時頼没。

三

一二六四  
三九

○尾州木賀崎靈鷲山長母寺に止住する。

○十一月、北条時頼没。

○十一月、北条時頼没。

後宇多		弘安元		伏見		正応二		永仁元	
二	三	四	五	六	七	八	三	四	五
一一二六五	一一二六六	一一二八一	一一二八二	一一二八三	一一二八四	一一二八五	一一二九〇	一一二九一	一一二九三
四〇	四一	五六	五七	五八	五九	六〇	六五	六六	六八

○五月(?)『沙石集』の執筆開始。

○八月、『沙石集』の執筆を終える。

○三月、道慧、大原野において『沙石集』巻一を書写。

○五月、道慧、土御門油小路において『沙石集』巻八を書写。

○熱田大明神、愛知郡猪子石村蓬谷棚の田七反を参禅の布施として寄付し、同所に来迎山観音寺を創建する(縁起)。

○後宇多帝の詔により、一条実経から東福寺の第二世にと懇請されること三度に及んだが固辞する(縁起)。

○弟子の無尽道証が京都西方寺において『沙石集』を刊行する(道跡考)。

○万歳楽をつくる(東福寺誌)。※『道跡考』は正応年中、『縁起』は年月不明のこととする。

○兀庵普寧帰宋。

○七月、惟康親王が將軍となる。

○三月、北条時宗が執権となる。

○九月、日蓮、佐渡島へ流罪となる。

○三月、日蓮赦免。○十月、文永の役。

○七月、蘭溪道隆没。

○六月、無学祖元来日。

○十月、円爾弁円没。

○七月、弘安の役。

○十月、日蓮没。○十二月、円覚寺創建。

○四月、北条時宗没。○七月、貞時が執権となる。○七月、一条実経没。

○十一月、霜月騒動。

○八月、一遍没。○十月、久明親王が將軍となる。

○八月、叡尊没。

○十二月、無関普門没。○南禅寺創建。

○三月、幕府が鎮西探題を設置。

○四月、鎌倉大地震。



正和元	応長元	
一三二二	一三二一	
八七	八六	
○十月十日、入滅。	○四月、蓮華寺において『聖財集』下巻を添削する。	
○尾張長母寺にて没（道跡考・縁起）。 伊勢蓮華寺にて没（伝燈録・高僧伝）。 ○自身で自像を刻み、自筆の梵字の宝篋印陀羅尼を中に入れ置く（縁起）。		
		○九月、師時没。○十月、貞時没。○十月、円爾に聖一国師の諡号が送られる。 ○北条熙時、執権となる。